

# 渋谷小学校

総合的な学習の時間を活用して「福祉」について学びました。福祉とは、「普段の暮らしを幸せに」する活動の取り組みのことであることを理解しました。それぞれが自分の知りたい福祉を課題設定し、情報を集め、発表会へつなげていきました。その中で、児童の選んだ課題にも多かった目の不自由な方への福祉という視点から「点字」「アイマスク」、実生活でも身近で経験した児童もいる「車いす」を体験させていただきました。

## <点字体験>

日常生活の中で、目にしたり、触ったりと児童もなじみがある点字ですが、実際には、どのように読むのか、点字はどのような活用法があるのかなど疑問がたくさん生まれました。実際に点字体験をして「点字は、反対から作っていくんだ。」「丸の数で言葉の意味が違うんだ。」「点字の本は真っ白だけどページ数がとても多くて読むのが大変そう。」などの感想が生まれました。日常生活で見ているだけでは分からない知識を得ることができました。



## <車いす体験>

下山利博さんにお越しいただきました。下山さんが車いすを必要となった経緯や、日常生活の困難さなども講話していただきました。調べ学習では学ぶことができない貴重な内容を聞くことができ、児童は真剣に考えながら聞くことができました。また、特別コースを作成し、乗車体験も行いました。乗る側と押す側の目線を体験し、障害のある方の気持ちに寄り添って学習することができました。以下は児童の感想となります。

「車椅子をしている時に、道端にゴミが落ちたりしていたり、犬のふんや汚いものがあつた場合は、タイヤについて、触ってしまい手が汚くなってしまうので、ゴミが落ちていたらなるべく拾うようにしたりすると良いと思いました。最初は車椅子を全く動かせなかったと聞いたと気は驚きました。ですが、諦めないでリハビリをして、ついには完璧に動かせるようになったので、無理だと思っても諦めないことは大事な事だと思いました。」



## <アイマスク体験>

視覚障害の方の視界の様子や点字ブロックの形の違い、SOSサインについて学びました。実際に2人一組で視覚障害者役とガイドヘルパー役の両方を体験しました。アイマスクをした状態で歩く恐怖や白杖の使い方を経験し、「何があるか分からなくて前に進むのが怖い。」

「白杖で段差や障害物の確認をしていることが分かった。」「毎日当たり前に見えている視界が見えなくなるだけで歩くこともいすに座ることも難しい。」「友達の声しか頼りになるものがなかった。」などの感想がありました。見た目では感じられない困難さを体感を伴って考えるきっかけとなりました。

また、ガイドヘルパー役の体験では、「こっちと言えば通じることが通じないから難しい。」「右や左に移動してもらう感覚が違って向かせたいほうに向けなかった。」「肘をもっというだけでは通じなくて手をとって動かす必要があった。」など障害者の方が困らないように安心して歩行させるためには、分かりやすい言葉かけが必要で、言葉と同時に動作も適宜必要があることを実感しました。体験活動を通して、視覚障害者の方への接し方と誰に対しても思いやりをもって手助けしていく大切さについて学ぶことができました。

